

# 令和5年度 学校努力点

## 1 令和5年度 名古屋市学校教育の努力目標及び重点事項

学習指導要領、「ナゴヤ子ども応援大綱」及び「名古屋市教育振興基本計画」を受け、令和5年度名古屋市学校教育の努力目標及び重点事項が次のように定められた。

### 【努力目標】

#### ともに学び 自分らしく生きる

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- 子どもが、自他のよさに気づき、互いを尊重しながら自分らしく生きることができるようするために、安心・安全で幸せな居場所となる学校づくりを推進する。

### 【重点項目】

- **主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進**
  - ・ ICTを効果的に活用し、指導の個別化・学習の個性化と多様な他者との学び合いを一体的に進める子ども中心の学びの実践
  - ・ 子どもが互いに関わり合い、支え合い、認め合うことを基盤とした学級づくり
  - ・ 実生活に生きてはたらき、各教科等の基本となることばの力の育成
- **自他のよさに気づき、自分らしく生きることのできる子どもの育成**
  - ・ 自他の命を大切にし、自他の存在を尊重する態度を育てる教育の推進
  - ・ 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけるためのキャリア教育の充実
  - ・ 「なごや子ども応援委員会」との協働や、関係機関と連携した支援体制の充実
  - ・ 生涯を通じてすすんで運動に親しむための指導の充実

## 2 浄心中学校 校訓

健康で明るく 勤勉で楽しく 聡明で正しく

## 3 令和5年度 浄心中学校努力点

ともに笑い ともに学び ともに生きる

— みんなで、陽だまりの笑顔！ —

(I) 令和5年度浄心中学校努力点設定の理由

**令和4年度の成果**

令和4年度は、上記努力点の設定1年目として「笑顔」をキーワードに、生徒の「主体性」を高め「笑顔」を引き出すことを重視して実践を行った。生活指導においては、新制服の制定、校則の改定を行い、生徒が主体的に考えて行動できるようにした。学習指導では、道徳科の授業や人権教育を通して、生徒の自尊感情を高める実践を行った。特別活動においては、生徒会活動を中心に、生徒の「主体性」を高め「笑顔」で活動することができるようにした。

学校評価の結果（「**そう思う**」「**どちらかといえばそう思う**」の回答結果）

- ・ 生徒アンケート
  - ㊦ 笑顔で学校生活を過ごせている→【96%】
  - ㊧ 学校生活が楽しい→【94%】
  - ㊨ 行事に積極的に参加している→【98%】
- ・ 保護者アンケート
  - ㊩ 子どもは行事に積極的に参加している→【94%】
- ・ 教職員アンケート
  - ㊪ 行事を通して生徒の自尊感情や主体性を高める工夫をしている→【96%】

上記の結果から、生徒の「主体性」を高め、「笑顔」を引き出す令和4年度の取り組みは、一定の成果があったといえる。

**令和4年度の課題**

本校には不登校生徒が複数おり、この生徒たちは学校評価アンケートに参加していないと考えられるため、上記㊦㊧をそのまま受け取ることはできない。実際に、下記のような結果も出ており、すべての生徒の「主体性」を高め、「笑顔」を引き出したとはいえない。

学校評価の結果（「**そう思わない**」「**どちらかといえばそう思わない**」の回答結果）

- ・ 生徒アンケート
  - ㊫ 先生に相談しやすい→【20%】
- ・ 保護者アンケート
  - ㊬ 学校が安心・安全で幸せな居場所になっている→【15%】
  - ㊭ 学校は生徒の主体性を尊重し、考える力を高められるよう努めている→【24%】

努力点に関する教職員の意見として下記のようなものがあり、生徒の「自尊感情」や「主体性」を高め、「笑顔」を引き出すことを継続する必要性がうかがえる。加えて、他者からの温かい言動を受け入れる力や、他者の「笑顔」を大切にする力の育成も必要だといえる。

努力点に関する教職員の意見（育てたい生徒像、力）

- ・ 元気に登校する生徒
- ・ 自分自身を理解し大切にできる力
- ・ 素直な生徒
- ・ 自分の笑顔だけでなく、周りの笑顔も求める生徒
- ・ 他者から認められたとき、それを受け入れる力
- ・ 他者を大切にする力
- ・ 自分で考え、行動できる力
- ・ 進んで挨拶ができる生徒

## 令和5年度浄心中学校努力点のねらい

そこで令和5年度も、生徒の「自尊感情」を高め、「主体性」を育む実践を続ける。その中で、自他の「笑顔」を大切にすることができるよう、自他の個性を認め、その価値について肯定的に表現する方法を学ぶ実践を行う。さらに、校内フリースクールを設置することで、不登校傾向の生徒や、教室で授業を受けられない生徒に、安心して学習できる環境を提供する。これらの取り組みを通して、全ての生徒にとって浄心中学校が安心・安全な居場所となり、「笑顔」で「主体的」に「学ぶ」ことができようとする。

### (2) 重点を置く活動

今年度は、【笑顔で学ぶ】という活動に重点を置いて実践を行う。生徒も、保護者も、教職員も一緒になって「陽だまり」のような温かい【「笑顔」で「学ぶ」】ことができるよう実践を行う。

#### ① 自他を尊重し、「笑顔で学ぶ」生徒を育成する道徳科の授業（人権教育）

年間を通して行う道徳科の授業で、指導すべき内容項目を扱いながら、自尊感情を高めることができるような実践を行う。また、女性・子ども・高齢者・障がい者・外国人・ホームレス・ハンセン病患者・北朝鮮拉致被害者などに関係する人権課題や、性の多様性といった今日的な人権課題を取り上げ、他者や社会との関わりについて学ぶことができるような実践を行う。その上で、自他の個性を認め、その価値について肯定的に表現する方法を学ぶことができるような授業を実施する。

#### ② 教室に入れない生徒が「笑顔で学ぶ」校内フリースクールの設置

様々な理由で教室に入れない生徒が、校内の教室以外の居場所で学ぶことで、将来の社会的自立につながる力を伸ばせるよう、校内フリースクールを設置する。安心して学習できる環境を整え、保護者の協力を得ながら、個に応じた支援ができるようにする。

#### ③ 生徒の「主体性」を育み、「笑顔」を引き出す生活指導

令和4年度に引き続き、生徒が「主体的」に考えられるよう指導方法を工夫する。さらに、令和4年度に制定した校則について、生徒が「主体的」に改定することができるような機会を設ける。このような取り組みを通して、生徒の考えを尊重しながら主体性を育て、「笑顔」で学校生活を送ることができるようにする。